



# たちばなの子



## 11月

平成22年10月29日 橘小学校 NO.8  
2学期後半の充実に向けて

ゆったりと秋の夜長に浸る間もなく、朝夕の急な冷え込みに戸惑いを感じるこの頃です。

2学期も早、後半の時期に入りました。感想文・絵画・マラソン大会・駅伝競走大会と、芸術・スポーツにいろいろ挑戦し名実共に収穫の秋を迎えています。

いよいよ11月です。2学期後半は、学習発表会・音楽フェスティバル・人権月間を山場に、日々の学習に集中し、仲間の繋がりを深めながら、心身ともに逞しい児童の成長を目指して努力していきます。



～10月の教育活動を振り返って～  
教育活動充実に向け力を合わせて頑張りました

## 毎日走り続けた 朝マラソン 力を尽くした マラソン大会

1学期から毎朝走り続けた朝マラソン。少々、雨が降っても、猛暑の日照りの続く夏も、自らの力に挑戦し、一生懸命走り続けた子ども達。

足の痛い日、体のだるい日、今日は休みたいと思う日もありました。それでも、仲間の頑張る姿に勇気づけられ、黙々と走り続けました。

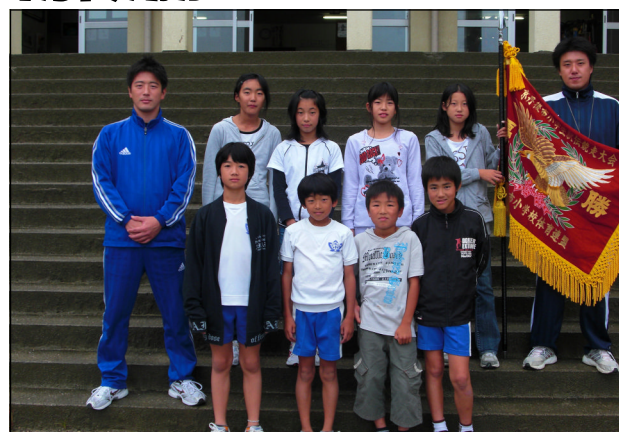
今年度は、朝会のある水曜日も休まず、週5日間毎日走り続けました。

そして迎えたマラソン大会。倒れ込みそうになりながらゴールするその姿は、苦しくてもやり切ったという自信と満足感でいっぱいであり、とてもさわやかな表情でした。

当日、PTAの役員様には立番をお世話になりました。また沿道の多くのご声援もどんなに心強く励みになったことでしょう。

本当にありがとうございました。

## 継続の力が実った 駅伝競走大会 初優勝おめでとう！



第19回京丹後市小学校駅伝競走大会が10/24(日)、途中ケ丘運動公園で行われました。

出場選手全員、自己ベストを更新し、初優勝！大会新記録！素晴らしい走りでした。

辛いとき、自分の弱さに負けそうになり、当日までは決して平坦な道ではありませんでしたが、日々こつこつ努力することの大切さを実感できました。賞は、温かく見守り応援してくれた仲間や家族、皆で獲得した結果です。そんな皆さんに大きな拍手！そして感動をありがとう。

## ストリング・カルテット・アース 3年生が体験しました 生演奏にうっとり

アウトリーチフォーラム事業で、プロの音楽家「ストリング・カルテット・アース」のみなさんに来ていただき、3年生が生演奏を聴きました。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの弦楽器を使っていろいろな曲を演奏して下さいました。

プロの生演奏を聴く機会の少ない子ども達にとって、とてもいい機会となりました。また、音楽のすばらしさを再確認でき、3年生も大喜びでした。わずか4人の演奏とは思えないような迫力。そして音色のあまりの美しさにうっとり・・・素敵なしとときを共有することができ、幸せな気分でした。



地域コーディネーター森茂夫氏、学校支援ボランティアさんにご愛お世話になっていきます。読み聞かせ・音楽♪♪♪

## 5・6年生 小・中学校音楽フェスティバルに出場



様々な取組と並行して、5・6年生は、来る11月13日(土)の京丹後市小・中学校音楽フェスティバルに出場します。朝と昼の時間帯を中心に、連日、みんなの心を一つにしなが、美しい歌声を目指して練習に取り組んでいます。

コーディネーターの森茂夫氏にお世話になり、音楽の先生をしていただいた浜岡慶明氏に来ていただいて、指導を受けています。口の開け方、歌い方等、合唱のポイントも教わり、少しずつ歌う楽しさや声が響き合うことの喜びも感じられるようになりつつあります。

## 11月の行事予定

1	月	登校指導1、AET、ギャラリー展鑑賞 2年参観・懇談
2	火	4年丹後園訪問、3年参観・懇談
4	木	人権月間(～11/30)、1・4年参観・懇談
5	金	クラブ、地区委員選出開始
8	月	「13日の振替休業日」
9	火	縄跳びスタート、体重測定1・2・3年
10	水	登校指導2、朝会、体重測定4・5・6年
11	木	ボランティア読み聞かせ
12	金	団体図書返却・貸出、委員会
13	土	授業日、音楽フェスティバル出場
15	月	AET、安全点検
17	水	児童朝会
19	金	登校指導3、学習発表会、クラブ
23	火	【勤労感謝の日】
24	水	学校朝会
26	金	委員会
28	日	市P研究大会
30	火	全校集金日、5年参観・懇談

11月19日(金)学習発表会です。各学年毎の取組を工夫し発表します。どうぞ、ご来校下さい。

## 後期児童会へバトンパス

会長：吉岡 快 副会長：奥田勝哉  
議長：船田和輝 議長：岡田穂乃果  
書記：東 剛志 書記：糸井真味  
本部の6人の児童を中心に、後期の役員のみなさんの活躍を期待しています。

偉業の前には「地道な努力」  
まさに「継続は力なり」  
どの人生の舞台にも言える  
真理に違いない

